

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年1月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100500
法人名	有限会社友星メディカル
事業所名	グループホーム谷山中央
所在地	鹿児島市谷山中央2丁目609-1 (電話) 099-268-1765
自己評価作成日	平成29年11月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成29年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るい雰囲気と野菜中心の手作りの食事が特色。支援の方向性としては介護・介入を少なくするように意識し、GHで暮らしている利用者方のお邪魔にならないことを主として自立支援に取り組んでいます。運営推進会議を兼ねての家族会は年に3回開催しており、ご家族方との意見交換の場としても機能しております。GHの現状と介護力等様々な実情も推進会議にては詳細に関係各位へと報告行っています。毎日買い出しに出ることで季節の旬の食材を様々提供できており、内容多彩な食卓となって好評得ております。緊急時には連携機関である田上記念病院のホットラインにて指示を仰ぐ体制ができており、迅速な初期対応ができています。ご家族方にはGHは利用者方にとって常時在宅であることをご理解いただけるよう努めており、自宅に家族の出入りが無いことは物悲しいことであるとお伝えし、GHへの来訪機会が増えていくように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○管理者及び職員は、開設時より利用者の尊厳や人権を尊重し、理念の「あなたらしさ」を常に意識して利用者の思いに添ったケアの実践に取り組んでいる。園内でのレクリエーションや外出等の取り組みも、無理強いしないで、基本的には利用者自身の意欲や気持ちに沿った支援に努めている。また、家族の絆を大切にしており、利用者や家族の触れ合いの機会を多く持つように、年3回の家族会では会食による懇談の場を設け、外出についても家族が主体的に実施するように支援している。

○管理者は、職員相互の協力及び信頼関係が何より利用者のサービスに影響すると考えており、気軽に意見を述べ合ったり協議できる体制を築いている。業務の改善やサービスのスキルアップについては意欲的な取り組みがなされ、外部研修の受講や勤務表の作成には職員の希望を汲みとり、また、資格取得に対するバックアップ体制に努めるなど、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。

○地域との交流も大切と認識しており、町内会に加入し地域の清掃活動に利用者や職員が参加して交流したり、実習生やボランティア等を積極的に受け入れている。また、玄関横に地域交流センターを設置し、地域住民からの相談やケアの方法等を助言する体制を整えている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り後にスタッフ全員で理念を唱和し理解を深めるようにしている。理念を共有することにより日常的にも理念を反映できるように努めている	利用者が地域の中で、その人らしく安心して暮らせるように日々取り組んでいる。理念は「身体拘束の三原則」と共に目に付きやすいホールに掲示し、毎朝申し送り後に全員で唱和して共有を図っている。また日常的にケアの振り返りや意見交換で共通の認識を深め、利用者の尊厳や気持ちを大切にケアの実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ふるさと祭見学をおこなっているが本年度は雨天のため中止。他地域清掃に元気な利用者と職員とで参加し親睦深める機会となっている	町内会に加入して地域の状況を把握し、清掃活動等に積極的に参加している。ホーム周辺の散歩や買い物時に地域の人々と挨拶や会話を交わし、高校生の職場実習やボランティア（楽器演奏等）を受け入れ、友人知人の来訪、農産物を頂くなど、日常的に地域と交流しており、利用者の楽しみになっている。また、玄関脇に地域交流センターを設置して地域の高齢者福祉や介護に関する相談に対応する体制を整えている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	見学者ご家族からの相談に随時応じ、入居、非入居に関わらず認知症等などの相談に応じている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の防災の情報や地域の特性など町内会長や民生員、県議員などから会議時に意見交換を行い、サービスの向上に活用している	会議は家族、町内会長、民生委員、市担当職員、県会議員等が参加して定期的開催している。ホームの現況や災害発生時の対応等の報告のほか、毎回テーマを決めて意見交換等を行っており、テーマに沿った出席者を工夫している。また、年3回は家族会と同一日に開催して多くの家族にも会議に出席してもらい、意見交換等を行ってサービスの向上や業務の改善に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	支所の保護課との連携は強化されてきている。おむつ代や介護券のやりとりを郵送ではなく直接窓口に向うことで情報共有行っており本年度は推進会議参加もいただくことができています	市の担当者には、運営推進会議に出席して貰うと共に、生活保護担当職員や長寿安心相談センター職員とは密に情報の提供や意見交換を行ってサービスの向上に務めている。市主催の会議や研修に積極的に参加して、行政職員や他施設の職員と情報交換を行う等、協力関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の三原則の毎日の唱和とミーティングにて身体拘束委員会開催行っている	身体拘束や虐待防止に関する研修を計画的に実施すると共に、毎朝「身体拘束の3原則」を全員で唱和して共有を図っている。日常的に意見交換やケアの振り返りを行い、職員の理解を深めて拘束のないケアに取り組んでおり、毎月の身体拘束廃止委員会でも適切な言葉づかいや尊厳を大切にされたケアの方法などを具体的に学んでいる。昼間は玄関等の施錠は行わず、見守りや声かけ、寄り添いに努めて利用者の安全を確保するなど、拘束のない自由な暮らしの支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年度の虐待委員会開催と内部研修にて防止について学び、実践に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	施設研修にて理念擁護の勉強会を開催行っており現在Gh利用者の保佐人とも研修会の情報いただき参加行ったり連携強化を図っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には時間をかけて丁寧かつ十分な説明に努めている。通常に家族や利用者方の立場に立ち不安や疑問が生じないように努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関先に意見箱を設置して、要望、意見など様々な意見を頂けるようにしている。また、ご家族来訪時の際にも意見伺う機会として意欲的に情報交換に努めている	利用者の思いや意見は日頃の暮らしの中での会話や表情、仕草等で理解に努め、家族の意見や要望は来訪時や電話連絡、年3回の家族会、運営推進会議時に対話に努めて把握している。要望や意見は、申し送りノート等で情報の共有を図り、日々の申し送りやミーティング等で改善策を話し合い、ケアに具体的に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングにてお互いの意見や提案を聞いたり、反映し、業務改善に生かしている。月に一度の管理者会議での他GHの情報提供も職員方へ周知おこなっている	管理者は日頃から職員とのコミュニケーションに努め、日常の業務の中や個別面談等で職員の意見や提案を聞き取り、協議して業務改善やサービス向上を図っている。勤務シフトの作成や外部研修の受講等も可能な限り職員の意向を反映させ、資格取得に対してもバックアップするなど働きやすい職場づくりに努めている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	現在の状況を管理者が把握し一人ひとりが向上心をもって勤務できるように管理者と職員とでよく話あって調整行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修に参加行ったり、研修情報を掲示し参加希望の職員への勤務調整など希望する研修への参加のバックアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	訪問薬剤師との情報交換や社会福祉協議会担当者、系列GH管理者との交流機会が増えてきており相互連携強化と情報交換ができてきている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分な情報共有化を図り、本人の困っていることや不安なこと、要望等を把握するように努め、信頼関係構築に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を伺う時間を十分にとり、思いをくみ取ることに努めている。家族の不安、要望に関しては細かく確認し、緩和できるよう努め、信頼関係築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族に利用開始にあたり十分な説明を行い、納得のいく形での入居にいたるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの人生観を支える思いでお互いが共同生活を行いながら、和やかな雰囲気づくりを行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	GHはご家族の協力のもと利用者方が自宅として生活していく場であることを懇意に説明行い訪問へのご理解・ご協力へとつなげている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別の宗教、家族間、友達などの生活歴などの情報から広く考慮したなかでGHにて本人らしい『在宅』生活で在るよう支援に努めている	本人や家族、関係者から利用者の入所前の状況を把握し、アセスメント表等で情報を共有している。家族や友人の来訪時にはゆっくり過ごせるように配慮し、本人の希望に沿って墓参りや買い物、一時帰宅、外食等を家族の協力を得て取り組んでいる。また、遠方の家族には毎月発行の「風のたより」で利用者の状況を伝え、電話、手紙の取り次ぎも支援し、馴染みの人や場との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気のあう利用者同士や関係性などを考慮しながら共有スペースでの席も配置行ったり、職員が間に入ったほうがいい場面には適時介入もちつつ相互の良好な関係性への配慮、支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	GH生活からみえる本人、家族の意向にも配慮行いながら随時相談支援に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	必要に応じてゆっくりと話伺う機会、時間をもっている。職員と一緒に希望、意向など広い軽微なもの(食事等)はすぎ反映している。また言葉や表情からも思いに気づくよう配慮している	利用者や家族との対話や表情、仕草等のサインで理解に努め、その人にとって最善のケアになるよう取り組んでいる。書初めや読書、日記帳等の趣味や洗濯物をたたむ等の得意な作業への取り組みについても、利用者の体調に配慮しながら希望に添って個別の支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係各位からも情報収集に努め、生活歴等の確認行うなかで本人の暮らしてきた環境や在宅環境に近い暮らしの提供ができるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の健康状態をよく観察し、できること、もっている残存機能に着目し自立支援に向けた取り組みを意識、行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中から本人の思いや家族の意見を聴き、運営に反映できるよう努めている。ミーティング時また休憩時間などに職員からの意見など収集しケアの方向性の調整を行い、計画に反映させている。	本人・家族の希望や主治医や担当職員の意見を把握し、課題の分析やケアの方法を協議して、きめ細かな内容の介護計画を作成している。支援の実施状況は「ケース記録」や「申送り帳」等で情報を共有しており、モニタリングも適切に実施している。利用者の状況の変化に対しても随時実状に即した介護計画を作成して支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の意見を集め、ケアの方向性がケアマネの画一的なものにならないように日々利用者方の状態の情報把握に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	トップダウンではなく職員方からの積極的なアプローチを大事にしながら計画に反映していくように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握と有効的な活用方法を随時考慮している。地域実情に応じての地域の一員としての暮らしが確保できるように努めている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の意向を重視行いながら、本人にとって最適な主治医へつなげることができるよう日頃から意識しながら支援に努めている	利用者の病歴等を把握し、本人・家族が希望する医療機関での受療を支援しているが、殆んどの利用者が協力医療機関を主治医としている。定期的な通院や専門医の受診等を支援しており、利用者の安心に繋がっている。利用者の病状や受診結果は「受診記録」や「申送りノート」等で情報を共有し、家族にも病状や受診結果を報告するなど密に連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師の職員や介護福祉士職員などによる気付きの共有化を行いながら、状況に応じて主治医への報告、受診支援に努めて早期に適切な医療が受けれる支援を意識している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携機関との連携、また入院先となった病院と連携図り、可能な限りGHにて生活継続できる形での連携に努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取り方針の説明、またGHでどこまで看ることができるとか、などは説明行っている。また必要に応じて利用者方の状態の変化なども細かく家族へと説明行っている。	重度化や終末期に対する対応を「看取りに関する指針」に定め、入居時に本人や家族に説明して理解を得ている。利用者が重度化した際に、主治医から病状の説明がなされ、職員や関係者、家族は十分な話し合いを繰り返しながら、医療行為の支援は行えないが、可能な限り家族が希望する支援に取り組んでおり、これまで2件の看取りを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連携機関である田上記念病院のホットラインを利用し夜間でも相談できるバックアップ体制ができています。マニュアル完備、また管理者への迅速な報告を周知し迅速な対応に動けるよう組織として取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議のなかで地域の避難経路、災害に対しての地域の特色など情報共有しながらGHの避難訓練にも生かせるように取り組んでいる	消防署と連携して、年2回の火災訓練と年1回地震災害時の避難訓練を実施しており、消防署職員による災害に関する講話や消火器等の取扱いの研修も行われている。災害に対する意識は高く、避難方法や経路等を日常的に話し合っている。スプリンクラーや自動通報装置等を完備し、災害時の食料や飲料水の備蓄やラジオ等も整備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の個人の人格や性格、プライバシーなど重視し、各利用者個人にあわせて対応行っている	利用者の人格を尊重し、居室への入室、排泄・入浴・衣服交換等のケアに際しては、尊厳やプライドを損ねるような言葉かけや対応を行わないように十分配慮して取り組んでいる。居室やトイレ、浴室はプライバシーが確保された構造になっており、利用者のケアに関する台帳等もプライバシーの保護に配慮して適切に取り扱っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重して、自己決定の難しい利用者に関してはそのご家族と話し合いながら可能な限り本人の思いをくみ取るように支援に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	押し付けがましいケアにならないように本人のペースに重きをおいて、見守り重視のケアに努めている。また在宅であること意識し必要以上の介入は避けるように意識して支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	生活のなかの箸やコップなど、他にも小さな持ち物などから彩や個性がみられるよう支援に努めている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューが単調にならないように、また同じものばかりの食事にならないように献立の時から気をつけている。また見た目にも美味しく、匂いも良く等五感で楽しめるようなおいしい食事提供に努めている。	身体状況に伴う制限や形態、栄養バランス、好み等に配慮しながら、差し入れの野菜も活用して季節感のある食事づくりに努めている。行事食や、外食、手作りのおやつ、家族との会食など食事が楽しみとなるよう工夫しており、調理や食材の下処理や下膳等は利用者も楽しみながら行っている。口腔ケアや入れ歯の消毒など利用者の状況に添って支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年齢や体調不良なども考慮しながら日々必要量の確保ができているから細かく確認行っている。また1日の総体としての食事量に着目しながら無理強いの食事支援も意識行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な限り本人の自力による支援に努め、介入は少なくするよう意識行っている。個々に応じて舌ブラシ使用、介助も行いながら清潔な口腔ケアにと取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	不必要なパット使用は控え、本院希望により布下着着用も見守りにて支援できている。時間での誘導や本人の動き、臭いなどからも情報拾いながら画一的な誘導にならないよう適時適切な支援に取り組んでいる	利用者毎に排泄パターンを把握し、食事の摂取状況や水分補給等も配慮しながら、可能な限りトイレでの排泄を支援しており、おむつ使用者がリハビリパンツでの対応が可能になるなど改善が図られている。羞恥心や不安の軽減にも細かに気遣いながら、利用者の状態に添った支援を介護計画に反映させて改善に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	夜勤帯、日勤帯が共に日々のバイタル表にて確認有無を申し送りし、便の状況などは主治医へと受診時に細かく報告行い、内服薬調整も積極的に執り行い、変化する状況に対応行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日は決まっているが、その曜日を楽しみとされている利用者が多い。また個々の希望、汚染などタイミングにあわせて曜日以外の支援にも努めている	利用者の健康状態に配慮して足浴や清拭も含め、週3回の入浴を基本としているが、利用者の希望や排泄の失敗等に対しては即時に清拭や入浴で清潔の保持に努めている。入浴の時間帯や温度、好みのシャンプー等も利用者の希望に配慮し、皮膚疾患の手当も行いながら、ゆっくりとした気分で入浴を楽しめるように取り組んでいる。入浴を渋る利用者に対しては無理強いしないで、スタッフの変更、声掛けの工夫を行って、入浴への意欲を待って支援している	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況、体調にあわせて座位や臥床など適切な介入行っている。不眠がみられる際にはお茶付き添いや声掛けなそ本人安心して入眠できるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服時には必ず日付、朝晩の確認、本人の名前の読み上げ行っ てからの服薬支援行っている。 状態悪化の際にも内服薬の副作 用疑い確認も行って、内服薬へ の理解への意識つけできている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の挨拶当番、洗濯物干し、 野菜の皮むき、台ふきなど各人 の生活歴や能力にあった家事参 加促すことで生活に張りがでる よう支援に努めている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	月1度の定期受診時に桜島がみ えるスポットに寄ったり、また 個別にドライブ支援行ってい る。家族へも利用者方が元気な うちに外出機会持たれてくださ いと声掛け行っている	外出に関する利用者の意向は、日常の会話や関わりの中で把握に努めており、健康状態や天候に配慮しながら、本人の希望に沿って散歩や買い物、ドライブなどに家族との触れ合いを兼ねて出かけている。また、日常的に園庭での散歩や桜の花見、通院等、外出の支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の管理能力と家族の意向も 確認行いながら可能な限りの自 己管理支援に考慮行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ハガキが届いたら本人にお渡し し、読んでいただき、電話希望 が発生したらご家族への電話連 絡～本人との会話支援行ってい る		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は特に清潔に気をつけている。季節ごとの四季を感じられるように演出物制作にも取り組んでいる。それらは利用者方にわかりやすい造形とするよう気をつけている	玄関や、ホール、廊下など共用空間は余裕ある広さで明るく、異臭や室温、湿度・換気、衛生、整理整頓等に十分な配慮がされている。随所に手作りの作品等が掲示され、テーブルセットやソファ、テレビ等の家具が利用者の動線を考慮して配置されており、和やかでゆったりと寛げる環境になっている。利用者は日常的に四季を感じながら好みの場所で談笑するなど居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間での席順は随時利用者方の関係性に最大限に考慮し、適時席変更も取り入れている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にとって居心地の良い空間となるよう馴染の物、家具など置くことにより可能な限り自宅に近い過ごし方ができるように配慮行っている	居室は、フローリングの床に腰高窓の仕様で明るく、エアコン、ベッド、ダンス、洗面台が備えてある。異臭や空調、清掃等衛生面に配慮し利用者が安心安全で快適な生活が営めるように日々支援に努めている。家庭と同様に落ち着いて過ごせるように使い慣れた寝具や、仏壇、テレビ、家族写真、小物等を自由に持ち込んで、その人らしい和やかな雰囲気のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレも本人の動線を利用した箇所を利用して本人が迷わないように考慮した誘導を行っている		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り後に、スタッフ全員で理念を唱和し理解するようにしている。スタッフが共有することにより理念に謳ったケアが刷り込んでいけるように努めている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年度は雨天のため不参加であるが地域のふるさと祭りに参加したり、日常の近くの散歩や外気浴時に近隣住民と挨拶したりと交流している。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	年三回行われている家族会の他に、運営推進委員会などを開催しポスター資料でお伝えし、意見交換なども行っています。実習生の受け入れも行っています		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所で現在取り組んでいる内容を報告し、意見交換など具体的な課題を話し合っている。又、理解を得るようにしながら各参加メンバーから要望を受け改善できるよう取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	谷山支所、鹿児島市役所、長寿あんしんセンターと連携を図っている。認定更新は勿論のこと、担当者へ入居者の近況を伝え常に協力関係を築くよう努め事業所の取り組みを折にふれて伝えている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎朝スタッフ全員で身体拘束の三原則を唱和している。認識し実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会やミーティングを行うなどし、理解を深め周知徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会、ミーティング等で情報など共有している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>常に利用者の立場にたち十分な説明をしている。不安や疑問点は時間をとって丁寧に説明している。その中で不足が生じていないか個々の立場に立って確認しながら健康状態など家族に定期的に報告行っている</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日頃より要望、意見を出してもらい機会を作り、また家族会・推進会議などで出された意見は運営や日々の暮らしのケアに活かしている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>ミーティングを毎月開催している。特にスタッフの声に耳を傾け、日頃からコミュニケーションを図り、質の向上に努めている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>研修や会議などに参加できている。報告はミーティングで発表をし全スタッフが閲覧するようにしている。研修には率先して参加するようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の日頃の努力や勤務状況などを把握し向上心を持ってスキルアップ出来るように配慮している。必要な研修の機会の確保に努めている</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同じ法人内の交流はもちろんのこと、近くの地域の同業者との交流する機会を積極的にもって質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の話聞き受容する。不安や困っていることなど把握するように努めている。特に困っていること、不安に思っていることを傾聴し理解したり、家族の思いを受け止めて信頼を作るよう努力している。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族との話し合いを充分にとり、思いをくみ取る対応に努め、ご家族が求めているものを理解できるよう面会時などゆっくりと話し合いをしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居者とその家族の要望を理解し、行える範囲で必要な支援を見極めて（病院受診支援等）支援行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>1つの家族という思いでお互いが共同生活しながら和やかな生活が出来るよう雰囲気作りや声掛けを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の様子を家族に伝えたり、家族の意見を聴いたりして本人を支える関係作りを築いているが決して一方的な関係になってしまわないよう配慮している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の方達と手紙やその他近況をお知らせし、いつでも面会に来ていただきゆっくりと一緒に過ごす時間を作っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は1人1人の入居者の気持ちを尊重し、じっくりと話を傾聴しお互い良い関係が持続出来るよう努力している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了した後も入居者や家族には不安を抱えていることに対し、いつでも相談を受けたり助言を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人とゆっくり話を聞く時間を作り家族・職員が一緒になり希望を伺い意見や状況の把握に努めている。表情からも思いを気付くようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からも話を聞いたり情報収集しつつもプライバシーに気をつけて、出来るだけ本人の暮らしてきた環境で暮らせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者1人1人の身体状況や生活のリズム、精神的においても出来ること持っている力を発揮できるように支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から要望を聞き反映させている。カンファレンスやミーティングで職員全員の意見を聴き、話し合い家族の要望を反映した介護計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日1人1人の気付きを記録してスタッフ間で情報を共有して意見交換し、話し合って介護計画の見直しを行いケアに記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて受診の付添他、必要な支援は逐次柔軟に対応出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや他の方々へはホームで行う行事等にも招待し交流を図っている。緊急時に備え消防署（谷山分遣隊）の協力を頂き防災訓練を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人：家族が希望するかかりつけ医との連携を図っている。家族が県外に移住していて受診できない場合は適切な医療が受けられるように職員が家族に代わって付添同行している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>常に入居者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。母体となっている医療機関の外来看護師に相談している。24時間体制のホットラインを使用している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時に情報提供となる内容の書面を発行している。入院後も病院を訪問し情報交換したり早期に退院出来るようにSW（ソーシャルワーカー）に働きかけを行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>かかりつけ医、看護師、家族と連絡を取り情報の共有を図り、体調変化に迅速に対応出来るように努める。出来る部分と出来ない部分の明確化。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>医療機関と密に連携を図り情報を共有し今後の変化に備えている。必要時の24時間体制ホットラインを利用し、夜間でも相談出来る体制を整えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>自衛訓練、また谷山分遣隊との連携を図り、災害時などを想定とした災害訓練を行っています</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けには十分配慮し1人1人のサインを全員が把握し、扉の開閉等に注意しプライバシーの確保に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話を通して個々のしたい事や好きな事の思いを聞き取り、日常生活の中で自己決定をして頂いている。これまでの生活歴や動作表情からも読み取れるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調やペースに合わせて出来るだけ希望に沿えるように支援している。やりがいや喜びに向けたものになるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	普段着用する服は本人の意向をきき選んで頂いている。訪問カットの利用の際は、本人の希望を聞き、整容している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各入居者と一緒出来る範囲で下ごしらえや、片付けを一緒に行っている。誕生日の献立や食材についても会話をして楽しむように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事や水分の摂取状況を毎日個別にチェック表に記録している。全員で一人一人の利用者方の状況を把握し水分や栄養バランス良く摂取出来るように支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の歯磨きの声掛けを行ったり、介助を行ったり、磨き残しがないかなど確認している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>入居者それぞれの排泄状態を把握している。それぞれに合わせて気持ち良く排泄出来るよう支援している。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘がちな入居者に対しては繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。家事活動など身体を動かす機会を作っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	温度や入浴時間も工夫し生活リズムに合わせて快適に入浴出来るように支援している。夜間帯の入浴は行っていない。男性職員が行う際には個々の利用者への配慮強めています		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、家事手伝いや他日光浴など通じて生活リズムを整えゆっくりと休息が取れるよう、安心して休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーをケース毎に整理し、必ず二人で確認し、誤薬防止に努め、職員は内服内容を把握出来るようにしている。病状の変化があった場合はすぐに主治医との連携を取って対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれ入居者に応じた家事参加が出来るように支援している。楽しみや役割を見つけ、やりがいや喜びに向けたものになるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候や体調に応じて外気浴へ出掛けられるよう支援している。本人に合わせた移動の配慮を行いながら入居者本位の外出を支援している。		
		○お金の所持や使うことの支援	管理方法を取り決め本人が金銭		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理の支援に取り組んでいる。本人の希望を聴き、行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族や友人に気軽にいつでも電話出来るように利用者の希望に応じて支援している。プライバシーに配慮している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにディスプレイを変えて季節感を感じて頂けるように努めている。使いやすい配置や居心地よく過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が過ごしたい場所で自由に過ごせるように支援している。座席の位置を考慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた馴染みの物をそばに置いたりすることで安心して居心地良く過ごせる部屋にしている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレ、浴室、廊下に手すりを設置し安全に過ごせるようにしている。トイレ、浴室、居室も理解出来るようにサインプレートを付けている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない